

一陽来復

2023年は12月22日が冬至です。

北半球では、一年中で最も昼が短くて夜が一番長い日です。

中国や日本では、冬至の翌日から日が長くなることから、

太陽が生まれ変わる日ととらえ、

陰が極まり再び陽にかえる日という意の「一陽来復」とも言います。

冬が去り、春が来ること、転じて悪い事が続いたあと、

ようやく好運に向かう意味が含まれています。

ゆず湯に入ったり、地方によってはかぼちゃを食べたりする

風習があったりします。



◆『文豪と食—食べ物にまつわる珠玉の作品集』

長山靖生／編 森鷗外ほか／著 中央公論新社 2019年



美味しいものを食べたり、料理をしたり、好奇心旺盛な

文豪たちの自身のこだわりが影響している作品を集めています。

林芙美子は上京してから、自伝的小説『放浪記』で有名になり

ましたが、この『文豪と食』の作品集には、うどんやへ女中として

奉公した少女の物語『小さい花』も含まれています。

- ◆ 『一所懸命』
岩井三四二／著 講談社 2007年
- ◆ 『サンタ・エクスプレス』季節風 冬
重松清／著 文藝春秋 2008年
- ◆ 『犬のため息』（ベスト・エッセイ 2004）
日本文藝家協会／編 光村図書出版 2004年
- ◆ 『柚子のある暮らしー料理、お菓子から薬効、化粧水まで
高知県馬路村・「ゆずの森」からー』
中村成子／著 文化出版局 2006年



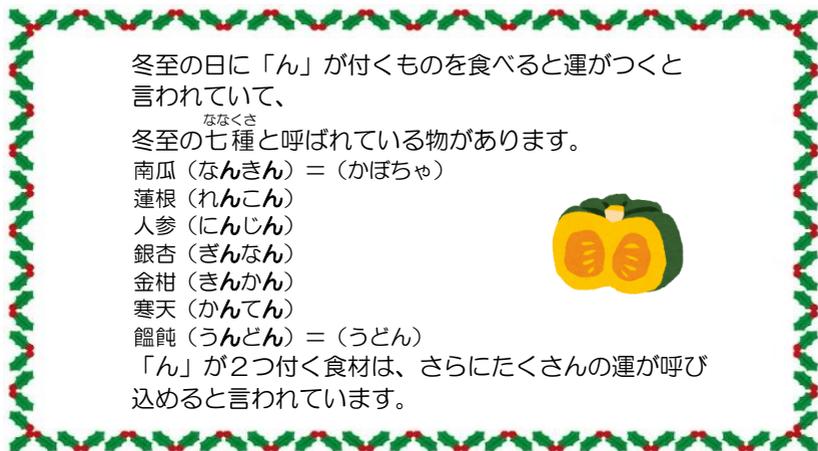
◆ 『さいたま市指定文化財の紹介
ー無形文化財 無形民俗文化財ー』

さいたま市教育委員会／編 さいたま市教育委員会／発行 2005年

さいたま市の指定文化財（無形民俗文化財）に「^{いっさん}一山神社冬至祭」があります。さいたま市中央区本町東4丁目の一山神社にて毎年冬至の日に行われ、「柚子まつり」とも呼ばれ、家内安全を願って「火渡り」の儀式を行います。

また、さいたま市のホームページにも文化財紹介されています。

(<https://www.city.saitama.jp>)



編集・発行：さいたま市立与野図書館
さいたま市中央区下落合 5-11-11
TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946

2023年(令和5)12月発行